

# われわれ

政治家が発信する言葉や政策は、国民の「声なき声」を聞くところから生まれます。私自身、大学時代は商学部でマーケティングを学んでいましたが、政治家となつたいま、4つのマーケティングが必要だと考えています。

「ノイジーマイノリティ」「サイレントマジョリティ」の方々、そして、彼らの「ため息」と「表情」——この4つのマーケティングを通して、国民の声に耳を傾け、政策や理念に反映させていく。その政策をメッセージとして発信し、実現させることが政治家の務めであると思っています。

たとえば、自民党は「自主憲法制定」を党是としています。私自身は、現実と憲法のパラドクスを考慮して「加憲」していくことは必要と思いますが、本当に日本国憲法を二度に「大改正」する必要があるのか、と疑問を抱いています。日ごろ、国民の声に耳を傾けていると、「憲法を改正してほしい」という意見は聞こえてこないんです。国民が望んでいることは、「もっと生活を良くしてほしい」「一人ひとりの権利をもっと大事にしてほしい」ということです。

特に自民党はこれまで、企業や団体

「逆命利君」の精神で政治家の「覚悟」を語る

## マーケティングがなければ政治は成立しない



政治家に聞く  
後藤田正純氏  
衆議院議員

といった「ノイジーマイノリティ」の声聞きすぎたと思います。その結果、次々に赤字国債を発行してしまい、巨額の財政赤字を抱いてしまった。さらに年金問題をはじめとした政治不信が加わり、「サイレントマジョリティ」まで怒り出したというのが現状です。

### コピーカに長けた野党 与党は安易なコピーに走らない

いわゆるコピーライティングの能力でいえば、私自身はまったく得意ではないですね。われわれ与党に比べ、野党の方が、国民に気持ち良く聞こえる言葉を発信しやすい環境にある。

与党は常に「守りながら攻める」という立場にあります。財源の裏打ちがあつて初めて、政策を世に出すことができるわけで、その発信はどうしても曖昧になりやすく、耳障りは良くない。野党の場合、メッセージは発信するものの、「どのように実現するのか」「財源はどうするのか」といったことまで説明していない。その質問に答える義務はないわけですから。だから、聞こえの良い言葉を発信できるのです。とはいえ、「国民の声聞く」という意見も聞き入れられることは非常に難しい。市場のニーズに対して良い商品やサービスをつくり、発信していくのが

企業のマーケティング活動ですが、政治の場合は違います。たとえば今は反対されたとしても、最終的に国民に利益をもたらす。そのような政策であれば、信念を持って主張すべきです。

### 自善で伝えたかったのは「覚悟」と「ぶれない姿勢」

それゆえ、私は消費税率のアップが必要と主張しているわけです。将来の世代に借金を残さないために、また国民全員が安心した老後を送るためにも、負担をお願いしたい。国民の将来不安を解消できれば消費意欲も高まり、経済が活性化します。そしていまい上に、地方や弱者の方々への再分配が可能になります。

とはいえ、国民の声に逆らうわけで

# 4つのマーケティング

後藤田氏が掲げる政治の世界において必要な4つのマーケティング活動。コピーライティング「サイレントマジョリティ」の人々へ訴えていくための「逆命利君」以上の4点を耳を傾け、是めるとして国民や世に発信していく。

すから当然、理解は得にくい。国民のためを思って主張していても、「増税派」というレッテルを貼られ、選挙で落選してしまうかもしれない。

だからこそ、6月に著書「政治家の覚悟 国民の覚悟（扶桑社）」を出版しました。私の思いが伝わらず、万が一のことが起きたときのために、遺言として自身の考えを残しておくかと思つたんですね。後世の人たちにも。だから、あの本を出した時点で私は「覚悟」を決めているんです。

私自身、内閣府大臣政務官時代には貸金業規制法の改正、いわゆるグレイゾーン金利の撤廃に精力的に取り組みました。改正の内容を骨抜きにするような金融庁特例案に対しては、政務官を辞任して反対しました。政治家には、「覚悟」と「ぶれない姿勢」が必要だと思います。いち政治家であっても、命がけの覚悟を持って仕事をしなければいけない。

### 言葉には生きざまが表れる 冷静に、時には熱く語る

とりわけ、総理大臣ともなれば日本の国民を束ね、なおかつ外交交渉もするわけですから、やはりそれなりの覚悟を持つて臨むことが国民に対する礼儀。私に言わせれば、総理大臣として1年も務めを果たせなかった人たちは、「元総理」と呼ぶに値しないと思いますね。

テレビ番組に出演している政治家の発言にしても、どこまで真剣に考えて話しているのか、非常に疑問を感じます。私の大叔父の後藤田正晴は、テレビに出演する際、その2時間前には執務室にも入り、どのような発言をすべきか何度も整理して考えていたそうです。やはり、言葉ひとつでも、その人間の生きざまや背景が見えてくると思っているので、私もテレビ出演の際には真剣に発言を考えます。

とはいえ、まだ私自身、完璧な発言ができていないとは思いません。自分だけこう熱く語るほうですから。ただ、それは決して悪いことではなく、むしろ誠実さを生むのではとも思っています。

普段は冷静沈着、でも時には熱くすることも必要。そうした自然体の部分

中国の古典「説苑」に出てくる言葉で、後藤田氏の座右の銘。現在の政治の世界に置き換えると、「時として国民の声に逆らっても、それを実行することで最終的に国民に利益をもたらす」の意となる。消費税問題が好例で、後藤田氏は将来の世代に借金を残さないために消費税率を上げるべきと主張。国民全員が安心した老後を送るための財源にすることで将来不安がなくなれば、消費意欲も高まり、経済が活性化すると主張する。

## 逆命利君

逆命利君

# 政治家の覚悟 国民の覚悟

今年6月に出版した後藤田氏の著書のタイトル。命がけの覚悟を持って仕事をしなければいけない立場だから、「覚悟」と「ぶれない姿勢」と「覚悟」が必要という通達で自身を鼓舞し、増税派として政策を進められた。後藤田氏は、万が一のことが起きたときのために、遺言として自身の考えを残しておくかと思つたんですね。

